

**函館市長の記者会見(電源開発からの説明を受けて)****▽読売新聞(幹事社)**

今日、常務執行役員が来られた感想と常務が会社として必要があれば社長が函館市に来ることもあり得ると会見でおっしゃったが、それについてどう思われるか。もし、来られたらお会いになりますか。

**▼函館市長**

さっき、副市長から持ってきたこれ(資料)を見せていただきました。元々福島原発事故からたった1年半しか経っていなかった一昨年の10月に建設が再開されたわけですね、原子力規制委員会の新規制基準の策定も待たずに、建設自体は再開して、事故前のいい加減な基準に基づいても建設が再開されていたわけですね。新たな基準に基づいて設置変更許可の申請というのは、何を今更というほかないと私自身は思っています。再稼働と違っておかしいでしょうということは前から言っていたわけで、もう以前のでたらめな基準に基づいてやっておいて、追いかけて今の基準に合うようにと。一昨年の10月ですから、もうそれから、2年も経っているわけで、何を言っているのかというのが実感ですよね。しかも先日提出された裁判の準備書面でも、変更許可の申請もまだしていないのに函館市が訴えるのは早すぎるみたいな話で年数がかかるから市の差し止め請求というのは、請求権の適格性を欠くと裁判上されていたわけでありまして、権利内容が不明確でかつ未成熟の状態にあるという話ですが、それとどう整合性をとるのか、裁判にそういう書面を出しておいて、今日こういうことですから、もう何なんでしょうね、三百代言の世界かなと思いかねないですね。本当に遺憾なんてものは通り越して。いずれにしても電源開発という会社が、国土や人の命、安全・安心というよりも、とにかく大間原発の建設ありきと、そっちが優先していることは前からはっきりしているわけですから、これは裁判で改めて闘っていく、闘志を燃やしているところでもあります。

この見せていただいたもの(資料)自体も、これで本当に十分なんですかというのがいっぱいあるわけで、活断層について疑問があるという声に対して答えていないわけでありまして、テロ対策一つとって、意図的な航空機衝突への対応、航空機だけがテロ対策なんですか、あなたが面している海峡は国際海峡ですよ、(領海が)3海里しかないんですよ、(領海が)12海里の原発と同じテロ対策で済むのですか、福島原発でわかったのは飛行機が突っ込んでくるような事故ではないのですよ。(テロリストが)乗り込んできて少数で、機関銃かロケット砲かわからないけれど、乗り込んできて占拠すれば、別に自衛隊が守っているわけでもないし、電源を全部ぶった切っちゃって、制御盤を壊しちゃえばどうなるんですかね。飛行機でぶつかる必要はないのですよ。そういうものしか想定していないわけですね。国際海峡のあんな場所に、最も日本で危険な場所に、世界一危険なフルモックスの原発をつくる、こんな国日本以外あるんですかね。逆に国の安全保障上どうお考えかということ、これは裁判でもお聞きしていますが、本当に改めて聞きたいと思ってますね。あんな場所につくる国、ほかにありますか。アメリカなら絶対作りませんよ。国の安全保障上の問題を一つとって、あの場所は本当にクレイジーとしか思いませんね。

社長と会うかどうかは、別にこちらから会いたいということはありません。申し込みがあったら会うかどうかは、その時点で考えますが、今の時点で申し上げる必要はないと思っております。

**▽北海道新聞**

今回、建設ありきの説明をしにきたかたちですが、係争中に説明を受け入れた理由を教えてください。

#### ▼函館市長

お話は聞かなければ何の話かわかりませんし、裁判で争っているといいながらも、お会いすることだけは別に拒む必要はないかと思えます。

#### ▽HTB

(説明が)終わった後に、常務がこちらとしてはきちんと説明できたというふうに述べられていましたが、それについてどのように受け止めますか。

#### ▼函館市長

いつもお話はその程度ですからね。我々の根本的な疑問に対しては、何ら答えていないですよ、毎回。向こうの都合のいい対策を持ってこられているだけで、納得できるような内容にはなっていませんし、元々私たちが求めている市民への説明責任を果たしてほしい、説明会を開いてください、これだって全然行われてこなかったというよりも、やる気配もないですよ。だから、市役所に来て通り一遍のこういう紙、こんなの送ってくるだけで十分でね、それが向こうの立場として配慮なのかもしれないけれど、我々が聞きたいことはもっと肝心なことで、その問いに対してきちんと答えてくれることが、彼らの本当の意味での説明責任を果たしたことになるのではないか。パンフレットやこんなあちこちに配っているものを持ってこられるのが、我々のような周辺自治体にすることなんでしょかね。

#### ▽朝日新聞

今回の説明を受けて、市からさらに質問する、回答を求めるといったアクションは起こされますか。

#### ▼函館市長

我々のほとんどの疑問点は、裁判で意見陳述もしていますし、向こうの準備書面と今回の対応のちぐはぐさ、不整合というのは裁判の場できちっとお話をしていく、こうゆうことをやっておいて、あの準備書面の通りなんですかということがありますよね。さっき三百代言と言ったけど。

#### ▽朝日新聞

年内に申請するというような具体的な話が詰まってきて、裁判の結果が出る前に進んでいく可能性がありますが、市として何か差し止めるための新たなアクションということを検討されていますでしょうか。

#### ▼函館市長

それはしていませんね。この変更申請すること自体は、彼らはもっと早くにすることを言っていたわけですよ。私はそれにある程度合わせた形で訴訟を起こしたいということだったのですが、訴訟を起こしてから半年ぐらい経ってますよね。そういう意味で改めてこれを受けて、大騒ぎして新たな対応するという事は考えていませんね。裁判の場で、こういうことも申し上げながら、あるいはこれに疑問点があるならば裁判の場で申し上げていくことになるのだろうと。場外で叫んでいても仕方がないような気がしますね。

#### ▽北海道新聞

裁判の件ですが、3月に全会一致で市議会で議決した議案書の中に請求内容の変更が工事の進捗によってできるという内容が含まれていたと思いますが、今回の申請に関しての請求内容の変容や追加というのは

考えられているのでしょうか。

#### ▼函館市長

まだその点については、弁護士の皆さんともお話をしなければなりませんので、依頼している弁護士にはこの事実が伝わっておりませんし、中身も伝わっておりませんので、今後対応してまいりたいと思っています。

#### ▽UHB

国会では、解散総選挙というような状況になってきています。選挙になった場合に8区に立つ候補に対して大間原発の政策などに望むことなどはありますでしょうか。

#### ▼函館市長

直接的に今日の話とは関係ないと思いますが、それぞれの候補者の考え方というのは、前回の選挙に立った方は、各々考え方を述べられておりますので、それに対してどうこうというのは私自身はありませんね。

#### ▽北海道新聞

10月31日に電源開発の本社で北村社長が行った会見で、地元同意の範囲について、5kmと30kmとでは別だとおっしゃっていましたが、そのことについてどのようにお考えか。

#### ▼函館市長

何が別だということがわからないですね。今までのお付き合いが違うというのであれば、お付き合いは違うでしょうね。だけど、義務づけられていることは同じなはずですよ。5キロも30キロも。単に自分のところの土地を使っているかどうか、それ以外かということで、危険性が5キロと30キロで、事故によっては違うかもしれませんが、過酷事故であれば、5キロであろうと30キロであろうと、今の法律上は何も変わらないのではないですか。避難計画という面からいうと。だからその理屈が私にはわかりませんね。味方の立地自治体とそうでない周辺自治体というのを向こうがただ使い分けしているのだろうなとしか私自身は見えませんが。